

【学園研 B】

1. 研究課題名

香港在住コリアンの言語使用と言語教育に関する研究

2. 研究代表者名

所属学部：文化情報学部 職名 講師 氏名 樋口謙一郎

3. 研究分担者

所 属 職 名 氏 名

所 属 職 名 氏 名

所 属 職 名 氏 名

4. 研究成果の概要（1, 200字程度で記入。ただし、図・グラフは使わないこと）

○研究の目的・背景

在外コリアン研究において、在中国コリアンの研究は多々存在するが、その多くは中国朝鮮族や中国大陸に進出する現代韓国人の歴史・文化・生活実態に関するものである。一方、中国の特別行政区であると同時に、コスモポリタンな性格を持つ香港社会という特殊条件におけるコリアンに注目した研究は稀少である。本研究は、香港在住コリアンに関する基礎データを収集・整理した上で、特に香港在住コリアンの母語と現地語の使用、言語教育の実態を可能な限り明らかにし、その言語観や文化継承意識を考察するものである。

○方法

日本国内における文献調査のほか、香港、韓国の大学図書館、公文書館、各種団体に赴き、以下の調査を実施した。収集資料の分析は現在、鋭意進行中である。

第1に、香港在住コリアンに関する基礎資料の収集を行った。世界諸地域の在外コリアンに関するデータや歴史的経緯との比較を心がけて整理を進めている。

第2に、香港在住コリアンの言語使用と言語教育の特徴および問題点について、韓国、香港の教育関係資料、各種報道を収集し、整理・分析している。

第3に、香港において、香港在住コリアンに対する聞き取り調査を行うことができた。聴取先は、香港の大学に勤務する研究者、高校生などであった。

なお、研究に際しては、香港、韓国の研究者から協力を受けており、今後も連携して分析を進めていく。

○研究の成果について

本研究では、香港、韓国の研究者の協力を仰ぎ、中国語（北京語・広東語）・英語・韓国語・日本語による資料検討および研究討論を実施し、外部観察者の視点と現地の視点を融合した分析を目指した。その成果については、平成21年度以降、日本語と英語で公表していく予定である。また、香港の研究協力者が、研究協議のため平成20年6月に本学を訪問されたので、代表者の卒業研究授業にゲストとして出席してもらい、学生への助言を賜る機会にも恵まれた。本研究課題の取り組みを通じて、日本・香港・韓国の間での共同研究の枠組みをつくることのできたので、今後もこのネットワークを維持・発展させて研究の深化を目指したい。また、研究成果を教育に還元・展開すべく、文化情報学部（特にアジア文化交流専攻）の授業でも関連テーマを積極的に扱っていきたいと考えている。